

3-3 とるべき行動〈水害〉 Course of Action 〈Floods〉

水害の原因は？

前線の停滞

日本付近では、6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞して、雨が降り続きます。



台風の接近

台風は暴風と大雨に注意が必要です。台風の規模によっては、広範囲にわたって甚大な被害をもたらします。



ゲリラ豪雨

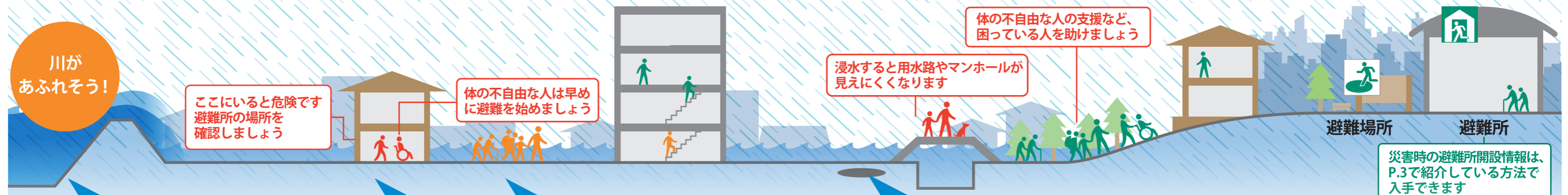
大気の状態が不安定な時、積乱雲が発達し、場合によっては線状降水帯が発生することにより局地的に強い雨が降ります。



- 真っ黒い雲が近づいてくる。
- 急に冷たい風が吹いてくる。
- 雷の音が聞こえてくる。

ハザードマップで自分の居場所の危険を知ろう

P.33 ~ P.48



川に近づかない！

**ライブカメラの活用**  
大雨・外水氾濫時の河川は水位が短時間で急上昇するため、気づいてからでは逃げられません。大変危険なので、絶対に近づかないでください。  
河川の状況はライブカメラ画像で確認しましょう。

国土交通省  
川の防災情報



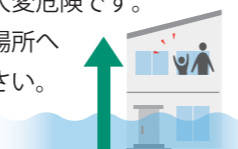
適切な避難方法を

- 外水氾濫時の避難方法**
- ① 浸水しない地域の親戚・友人宅へ避難
  - ② 近くの避難所へ避難
  - ③ 垂直避難(高いところへの避難)
  - ④ 徒歩で避難場所へ！



屋内安全確保

**浸水がすでに始まっている場合は今いる建物内で垂直避難**  
浸水が始まっているときに外へ移動するのは大変危険です。少しでも高い場所へ避難してください。



避難の注意

**用水路・マンホールは危険！**  
浸水すると用水路やマンホールが見えにくくなります。また、水が吹き出す場合があります。あり大変危険です。



避難の時は足元注意！

浸水している場所を歩くときには、棒などで足元をよく確認し、用水路や側溝などに注意して避難しましょう。水の深さが膝を超えると歩行が難しくなります。  
**(目安)**  
大人男性 …… 水位 70cm  
大人女性 …… 水位 50cm  
子供 …… 水位 20cm



アンダーパスに注意しよう！

アンダーパスとは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことをいいます。地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。大雨、外水氾濫時には進入はやめましょう。

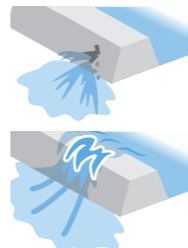


水害が起こるのは？

堤防の決壊と排水施設の限界です。

堤防の決壊

- 河川の水が堤防内にしみこみ、堤防が弱くなり起こる。
- 速い水流によって堤防の河川側が侵食されて起こる。
- 増水により河川の水が越水し、堤防が削られて起こる。



避難判断水位

避難情報の発表目安となる水位

桂川(桂観測所) 3.90m

小畑川(大原野観測所) 2.20m

氾濫危険水位

河川氾濫のおそれがある水位

桂川(桂観測所) 4.00m

小畑川(大原野観測所) 2.60m

排水施設の限界

排水路で雨水がはけきれなくなり、水がマンホール、溝から吹き出します。



大雨時の災害リスクを知る

大雨時に想定される流域での災害リスクを知っておくことは重要です。また、ダム情報や水位情報により河川の状況を知ることができます。



京都府いろは呑龍トンネルの貯留量について

向日市の雨水を地下トンネルに貯留することができる「いろは呑龍トンネル」では、現在の貯留量をリアルタイムで確認することができます。

いろは呑龍トンネル  
リアルタイム雨水貯留管情報



危機管理型水位計について

危機管理型水位計は、外水氾濫時の水位観測に特化した水位計で、一定の水位を超えた時に、観測モードに切り替わり、10分以内毎に水位データを観測します。危機管理型水位計は、一般財団法人河川情報センターが提供する「川の水位情報」で閲覧することができます。



川の水位情報

ため池の増水や決壊に注意しよう！

大雨や地震によりため池が増水したり決壊することにより下流域に被害を及ぼすことも考えられます。

災害時の避難所開設情報は、P.3で紹介している方法で入手できます